

電子ジャーナルの過去、現在、未来

兵庫県立大学大学院工学研究科 中野英彦

1. はじめに

演者が電子ジャーナルに関わることになったのは、1995年に本学会の前身の一つである「化学ソフトウェア学会」の論文誌「Journal of Chemical Software」(以後 JCS 誌と呼ぶ)を電子化して、当時一般に普及してきたインターネットを通じてオンラインで発信する試みを始めたことからである。以後、1996年より同誌のオンライン発信の本運用から、電子ジャーナルの発行は現在の本学会の論文誌「Journal of Computer Chemistry, Japan」(以後 JCCJ 誌と呼ぶ)に引き継がれ、ほぼ10年が経過した。本講演では、電子ジャーナル全般ということではなく、演者の経験した JCS および JCCJ 誌の電子ジャーナル化について、その草創期の昔話から、現在の JCCJ 誌の状況、さらに将来の予測について述べる。

2. 過去

最初に JCS 誌の電子化ジャーナル化を始めたときは、著者からワープロで出力された紙の原稿の他に、フロッピーディスク(現在のように、全ての著者が電子メールでファイル添付できるとは限らなかった)による電子原稿を受け取り、そのファイルから、手作業によって HTML タグを付加して HTML ファイルとし、全文をオンライン公開した。サーバーは、演者の所属した姫路工業大学(現兵庫県立大学)の研究室のワークステーションを使用した。

その後、1997年から1999年の間、文部省科学研究費補助金(研究題目「インターネットを利用した学術雑誌の電子出版システムの開発」)を受けて、電子出版によるオンライン公開と、冊子体の印刷を統一的に行うシステムを開発し、実際の運用に利用した。

3. 現在

2002年に、化学ソフトウェア学会と日本化学プログラム交換機構が統合して本学会が設立され、論文誌として JCCJ が発行されるに際して、同システムによる電子出版が引き継がれた。学会独自のサーバーとして、(株)ベストシステム社のワークステーションでデータを公開している他に、独立行政法人科学技術振興機構の運営する J-STAGE (科学技術情報発信・流通総合システム) 上においても公開されている。さらに、本年から J-STAGE を通じて CrossRef にも加入することにより、オンラインジャーナル間の相互引用のリンクが張られることになった。

4. 未来

J-STAGE では、学術論文のオンライン公開のプラットフォームとなるだけでなく、オンラインジャーナルの論文投稿および審査を支援するためのシステムの開発を行っている。JCCJ 誌もこのシステムに参加することとし、現在試験運用の開始直前となっている。本年度中にも本運用に移る予定であり、その暁には、論文投稿から審査、公開までのオンライン化が達成される予定である。